

名詞・冠詞・代名詞の見取り図

年 組 番 名前 _____

この紙のゴール：冠詞を場面を選び、one と it を指すものに合わせて使い分けられる

入試へ挑むクラス 偏差値のめやす 60以上 one / it / that の使い分けと、慣用の無冠詞まで (確認は4択)

気づき AとB、同じ場面の続きの2文。1文目は a、2文目は the。書き手は何を考えて入れかえた？ (30秒考えて、となりの人と答え合わせ)

A	I saw a small dog in the park.
B	The dog was wearing a red scarf.

決めているのは読み手の頭の中に、それがもうあるかどうかです。Aの時点では、読み手はその犬を知りません—だから「1匹の犬がいてね」と差し出す a。Bを読むころには、読み手はもうどの犬のことか分かっている—だから the。冠詞は名詞の飾りではなく、相手に向けた合図です。だから同じ名詞でも、場面が変われば冠詞は変わります。

整理 この単元で扱う6つの判断 (相手ににとってどう見えているか)

形	作り方	表すこと	例文
a / an	a + 数えられる名詞の単数	相手ににとって初めて出てくる1つ	I saw a dog near the gate. 門の近くで犬を見かけた。
the	the + 名詞 (単数も複数も)	相手ももう特定できる	The dog had a red collar. その犬は赤い首輪をしていた。
無冠詞	複数形・数えない名詞・慣用	種類ぜんたい・目的を言う	Dogs are loyal animals. 犬は忠実な動物だ。
数えない名詞	information / advice / homework など	数えるなら a piece of	He gave me a piece of advice. 彼は助言を1つくれた。
形式主語・形式目的語	It is ... to do ... / find + it + 形容詞	長い中身を後ろへ	It is hard to change a habit. 習慣を変えるのは難しい。
one / it / that	one = 同じ種類のもう1つ / it = そのもの	何を指すかで分ける	I lost my pen, so I bought one. ペンをなくしたので買った。

問われるのは規則の暗記ではなく読み手の頭の中にそれがもうあるかです。①まだ無いなら a、もうあるなら the、種類ぜんたいなら無冠詞の複数形。②数えない名詞は -s も a もとらない。③形式主語の it は訳さない—that では代われない。④one は同じ種類のもう1つ、it はそのもの。⑤ go to school / go to bed のように、建物ではなく目的を言う言い方がある。

確認 () 内から正しいものを選ぼう。 知識・技能

- (1) She gave me one useful piece of (advices / an advice / advice of / advice) .
- (2) (It / That / This / There) is difficult to learn a new language in a month.
- (3) The rain made (that / this / it / us) impossible for us to play outside.
- (4) I lost my umbrella yesterday, so I bought (it / a new one / new one / the new one) today.
- (5) My father goes to (the work / a work / works / work) by train every morning.

名詞・冠詞・代名詞の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	advice	advice も数えない。数えたいときは a piece of advice の形を借りる。
(2)	It	うしろの to 不定詞が本当の主語。頭の it は「それ」と訳さない。
(3)	it	make + it + 形容詞 + to do。本当の目的語は to 以下。
(4)	a new one	買ったのは 同じ種類のもう1つ なので one。it だと同じ傘になる。
(5)	work	go to work / go to school は 目的 を言う形なので無冠詞。

つまずき① 数えない名詞に -s や a をつける

information / advice / homework / furniture は数えません。日本語で「助言を2つ」と数えられるのに引かれて壊れます。数えるときは **a piece of** を借ります。

× The teacher gave us many advices about our homeworks. → ○ The teacher gave us a lot of advice about our homework.

advice も homework も数えない。many は数えるもの用なので a lot of / much に替える。

つまずき② 初めて出すものに the をつける

the は「読み手ももう特定できる」という合図です。まだ知らない→**a** / もう分かる→**the**を、書きながら1回ずつ判断してください。

× Yesterday I met the girl from Australia at the station. → ○ Yesterday I met a girl from Australia at the station.

その子の話は初めてなので a。駅は相手も分かる「いつもの駅」なので the でよい。同じ文でも判断は名詞ごと。

つまずき③ 種類ぜんたいの話に the をつける

「犬というものは」と**種類ぜんたい**を言うときは、複数形で無冠詞にするのがふつうです。the をつけると「その犬たち」に読まれます。

× The dogs are loyal, so many people keep them. → ○ Dogs are loyal, so many people keep them.

特定の犬の話ではないので無冠詞の複数形。A dog is loyal. も言えるが、かたい説明調になる。

つまずき④ 形式主語の it を「それ」と訳す

It is ... to do ... の it は、長い中身を後ろへ送る**場所取り**で、指しているものはありません。訳すときは to 以下を主語にして読みます。

× That is important to read the question carefully. → ○ It is important to read the question carefully.

that は「さっき言ったこと」を指す語なので、場所取りには使えない。頭に置けるのは it だけ。

つまずき⑤ one と it を取りちがえる

one は「**同じ種類のもう1つ**」、**it** は「**そのもの**」です。日本語はどちらも「それ」なので、買い直したのか見つかったのかで正反対になります。

× I lost my key, but my brother found one under the sofa. → ○ I lost my key, but my brother found it under the sofa.

見つかったのはなくした**その鍵**なので it。one だと「別の鍵を1本見つけた」ことになる。

授業のひとつ 前日にこの紙を配り、確認問題まで解いてこさせる反転で使えます。授業はドリル発展版 大問3の検討と、自分の書いた英文から冠詞だけを抜き出して判断し直す練習に充ててください。

